名古屋観世会 定例公演能

平成三十年 六月十日【日】

12時30分開演
（11時30分開場）

能 隅田川・野村四郎

狂言 因幡堂・井上松次郎

能 阿漕・観世銕之丞

平成30年度のご案内
（年3回の上演になります）

SS席年間特別指定席券	35,000円
S席年間指定席券	25,000円
年間自由席券	15,000円
当日指定席券	8,500円
当日自由席券	6,000円
学生券（自由席）	2,500円

※自由席券は、各回共通、
1回に何枚でもご使用になれます。

指定席券を指定日にご利用できなかった場合、年度内ならば何時でも、自由席券としてご使用できます。その時は必ず受付にて当日券に変更してください。
※自由席満席の場合はご容赦ください。

お知らせ

すでにご購入済みの「年間チケット」を上位席に変更できます。

●S席→SS席に変更の場合	差額 3,750円
●年間自由席→S席に変更の場合	差額 3,000円
●年間自由席→SS席に変更の場合	差額 7,000円

お問い合わせ
名古屋観世会事務所（久田勘鳴方）
〒465-0093 名古屋市名東区一社3-162
TEL(052)734-6192
FAX(052)705-1585

番組

能

隅田川

シテ 狂女 野村四郎

ワキ 渡守 飯富雅介
ワキツレ 旅人 橋本 宰

大鼓 河村総一郎
小鼓 久田舜一郎

笛 鹿取希世

地謡 加賀敏彦 清沢一政 山階彌右衛門 久保信一朗

後見 祖父江修一 観世芳伸

地謡 伊藤裕貴 吉沢 旭 本田 勲 松山幸親

後見 山中雅志 野村昌司 久田勘鷗 久保信一朗

仕舞
敦盛 キリ 八神孝充
夕顔 キリ 星野路子
班女 クセ 瀬戸洋子
雨之段 前野郁子

狂言

因幡堂

シテ 男 井上松次郎
アト 女 佐藤友彦

後見 今枝郁雄

仕舞
花筐 狂 武田志房
山姥 キリ 久田勘鷗

地謡 観世淳夫 野村昌司 観世芳伸 山中雅志

休憩十五分

能

阿漕

前シテ 漁翁
後シテ 阿漕 観世銕之丞

ワキ 男 高安勝久

間 浦人 鹿島俊裕

大鼓 河村眞之介
小鼓 後藤嘉津幸

太鼓 加藤洋輝
笛 大野誠

地謡 伊藤裕貴 清沢一政 吉沢 旭 山階彌右衛門 八神孝充 武田志房 松山幸親 祖父江修一

後見 観世淳夫 野村四郎

附祝言

（四時頃 終了予定）

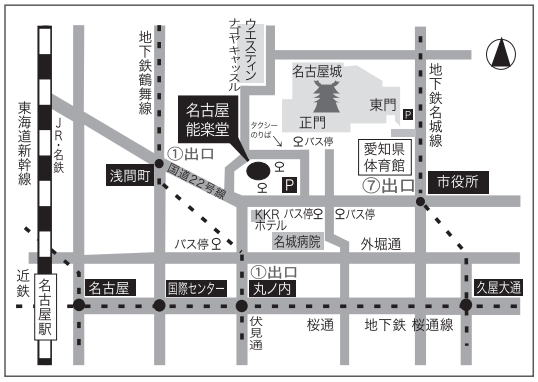
◆隅田川（すみだがわ）

【あらすじ】春の武蔵野、隅田川のほとりで大念仏を催すことになり、渡守がその人数を集めています。そこへ都から一人の旅人が来ます。そして、すぐそのあとから女物狂が物につかれたようにやって来ます。彼女は、都北白川の者ですが、子供を人買いにさらわれ、そのため狂気となって我が子の行方を尋ね歩き、はるばる東国まで来たのです。そして便船を頼みますが、渡守はなかなか乗せようとしません。すると狂女は「伊勢物語」の言葉を引き、「隅田川の渡守ならば、〝日も暮れぬ舟に乗れ〟というべきだ」とやりこめます。また沖の鷗を見つけ、「名にしおはば、いざ言問はむ都鳥、わが思ふ人は、ありやなしやと」という業平の古歌を思い出し、業平は妻を、いまの自分は我が子を尋ねているが、その思いは同じだと嘆きます。渡守は哀れになり船に乗せてやります。そして船を漕ぎながら、旅人の問に答えて、川向うの大念仏は、一年前、人商人に連れられて来た子供が病死したのを、人々が不憫に思い回向しているのだと語ります。その子こそ尋ねる我が子の梅若丸と判かり、狂女は泣き伏します。同情した渡守は、女をその塚に案内してやります。母の念仏に我が子の声が聞こえ、その姿がまぼろしのように現れますが、そのまぼろしは夜明けと共に消え失せ、あとには草の生い茂った塚があるだけでした。

◆阿漕（あこぎ）

【あらすじ】九州日向国（宮崎県）の男が伊勢参宮を思い立ち、長い旅路の末、伊勢国（三重県）安濃の都までやって来ます。丁度現れた一人の年老いた漁師に、ここが阿漕が浦であることを教えられたので、この浦を詠んだ古歌を口ずさむと、老人も別の古歌を詠じます。そこで旅人が、この浦の名のいわれを聞くと、老人は、昔からこの浦は、大神宮の御膳を調えるための網を入れるところなので、一般には禁漁となっていたのだが、阿漕という漁師が度々密猟をしていた。やがてその事がわかって、彼は捕えられ罰としてこの沖に沈められた。そのことから阿漕が浦というようになったと物語り、その罪に今も苦しんでいるので弔って下さい、というので、さては阿漕の幽霊だなと思っていると、その老人は、夕暮れの海辺に網をひく様を見せながら消え失せます。〈中入〉男は不思議に思って、浦の人に、阿漕が浦の故事を聞き、先程の老人の話をすると、きっと阿漕の亡霊にちがいないから回向してやるようにすすめて去ります。旅人が、法華経を読誦していると、阿漕の亡霊が四手網を持って現れ、密猟の有様と地獄での苦しみを見せ、救ってほしいと願って、また波間に消えてゆきます。

能楽手帖　権藤芳一より



平成30年
名古屋観世会 定例公演予定

11月11日（日）
頼政　梅若玄祥
葵上 空之祈　久田勘鷗

◆御案内

一、都合に依り曲目、出演者に変更があるかも知れませんが予めご承知下さい。
一、演能中はお静かに又演能中のお出入りはなるべくご遠慮下さい。
一、録音、撮影等はかたくお断り致します。
一、携帯電話及び時計のアラーム等はあらかじめ電源をお切り下さい。
一、幼児のご入場は勝手乍らお断り致します。
一、演能終了後の拍手は、シテが幕に入ります迄御遠慮頂ければ幸甚に存じます。

名古屋観世会

名古屋能楽堂
〒460-0001　名古屋市中区三ノ丸一丁目1番1号
TEL.052-231-0088
FAX.052-231-8756
http://www.bunka758.or.jp/